

平成 30 年度 第 7 回静岡市市民活動促進協議会（第 6 期） 会議録

- 1 開催日時 平成 31 年 2 月 1 日（金） 16 時 00 分～17 時 15 分
- 2 開催場所 静岡市役所静岡庁舎本館 3 階 第 3 委員会室
- 3 出席者 <出席委員>金川会長、山本副会長、池田委員、伊藤委員、片井委員、栗田委員、後藤委員、近藤委員、中村委員、弓削委員、吉田委員
<オブザーバー>五味番町市民活動センター長
磯谷清水市民活動センター長
<事務局>深澤市民局次長、小畑市民自治推進課長、佐々木係長、長島主査
- 4 傍聴者 0 人
- 5 議題 (1) 市民活動促進基本計画の中間見直しについて（答申案の決定）

6 主な協議内容

<金川会長>

本日の議題は市民活動促進基本計画の中間見直しについてということで、答申案の決定という事になります。

前回みなさんから協議会で色々ご意見受けまして、事務局の方でそれに基づいて修正案を作っていただきました。それは事前にご確認をお願いしましたが、それを反映したものを改めて事務局の方からご説明をお願いします。

【事務局より説明】

<金川会長>

修正案について、委員の皆さまご意見はありますか。

<片井委員>

別紙の（2）協働事業の部分で、行政との協働だけが協働ではないとあり、この後に国や県が出てきますが、国や県も行政機関だと思いますので、言い方を変えた方が良いと思います。

<事務局>

具体的な直し方とすると、行政を市に直すということによろしいでしょうか。ご指摘あり

がとうございます。

<金川会長>

そのような方向で修正してください。

他に何かご意見ありますでしょうか。ここまで異議がなければ拍手をお願いいたします。

【一同拍手】

ありがとうございます。それではこれで答申案が無事に決定となりました。ありがとうございました。

<事務局>

答申を始めさせていただきます。

【答申】

<金川会長>

本日の議事はすべて終了という事になります。1年半という期間でしたが、今回は基本計画の中間見直しということで審議を重ねてきました。本日をもって協議会自体は終わりということになりますので、皆さまに一言ずついただきたいと思います。

それでは中村委員からお願いします。

<中村委員>

1年半の長きに渡りご一緒させていただきありがとうございました。市のためになったかどうか、良かったといえるほどの事ができたかわかりませんが、少なくとも私自身はみなさま委員のご意見を伺って、自分でも色々と考え大変勉強になったと思います。

この経験を色々なところで活かしていけたらいいなと思います。ありがとうございました。

<弓削委員>

最初は不安でしたけども、主に自分が勉強させていただく場になっていたと感じます。市民活動、その促進とはなんだろうということは、これからも考えていくことですし、自治会との兼ね合いや、生涯学習とも重なる部分は多々あると思います。その中で、市民自身が生きやすく、市としても実りあるまちになっていけるのかを、これを機にあらためて考えていきたいと思います。

私たちは子どもに関わる機会が多いので、子どもは小さな市民だよということを伝えて

います。子どもに言ってもわからないですが、そういうスタンスで関わる大人がいるというのはすごく大事だと思っていますので、これを機に自分たちの活動も充実させていきたいと思っています。ありがとうございました。

<池田委員>

今期から初めて委員をさせていただきましたが、すごく良い経験をさせていただいたと思っています。

ただ思う中では、自治会というものが市民活動に加わるようになってきた時に、私自身が主にその関係の活動をしているので、やはりこのままで良いのかというのをすごく思いました。

最近色々な機会がありまして、全国の先進地の話を聞くことが多いです。東近江市や雲南市ではすごく先進的な取組をしていて、評価指標は数字にこだわらない時代に入ってきていると。そういうことを考えていくと、市民活動の底上げはもちろんですけども、やはり行政を含めた上でもう一度協働というものをしっかり考え直す必要があると感じます。

静岡に帰ってくる度に静岡は遅れていることをひしひしと感じます。市民活動の底上げをしながら、行政も今までとは違う意識で市民とともに、とういよりも協働という言葉が実際古いと思います。協働という概念で動いていると物事が進まないですし、これからの時代行政ができることが少なくなっていく中で、それを超えた段階での共に一緒にやっていくというレベルにまでなっていないと、世の中良くなっていかないじゃないかなと思うことが多いです。

今回すごく良い経験をさせていただいたので、来年からも活かしていければと思います。ありがとうございました。

<近藤委員>

一番嬉しかったことはここからネットが構築されて運営が始まったことです。これからも広がっていくことを期待しながら、私たちも大いに利用していくように皆さんに広げていきたいと思うことが、とても将来性がある楽しみな部分だと思います。

そして、一つ今後の不安として戦々恐々していることがあるわけですが、外国人労働者が非常に勢いで増えてくるということです。私共のような、外国人の方と接する機会が多い仕事をしている人間ですとか、ボランティアの活動をしている者が集まりますと、常にそういったことが話題になります。

今までも外国人の方々に対応して仕事やボランティアをしてきたわけですが、皆さん自国の文化、価値観、生活習慣などを当然持ち込むわけですが、日本に入ってきて、日本人の文化、価値観、習慣、コミュニケーションの取り方に非常に戸惑います。本音が全然違うなど困惑する部分があります。

日本人は、他国に比べて空気を読む力や表情の変化をとらえる力など、言語によらないコ

コミュニケーションが非常にうまくですが、それが外国籍の方には一切通じていかないという思いを20年以上してきました。そのため、今後もっと外国人が増えていったときに、これは自治体のレベルでなんとかしていかなければならないことだと思い、非常に大きな不安を抱えています。それをどのように市民活動の中に活かしていけたらいいのかということをもっと重要な課題として、皆さまともシェアさせていただけたらありがたいと思っています。よろしくお願いします。

<伊藤委員>

私は転勤族で、自治活動にまったく参加してきませんでした。この会議に参加させていただいて今後の自治活動の重要性を感じました。

事前にチラシを配付させていただきましたが、1月20日に人生100年サミットが開催され、私も講演者側として出席しました。講師の若宮正子さんは三菱銀行を60歳で定年退職されて、お母さんの介護でずっと家にいらっしゃった方です。そのお話の中で人とのつながりというのはとても重要だということを盛んにおっしゃっていました。つながりには、血縁（親戚）、地縁（隣近所）、それから職縁（職場とのつながり）があります。職縁は退職すると無くなっていきますし、血縁も年を取るとだんだん少なくなっていく中で、新しいつながりとしてネット縁ということをおっしゃっていました。彼女は80歳でプログラミングを習得し、iPhoneのhinadan（ひな壇）というアプリを開発しました。世界最高齢のプログラマーということで、アップル社のティム・クック CEO との面談、国連での登壇、天皇皇后両陛下主催の秋の園遊会への出席などをした、世界一有名な80歳です。ご自身はネットやスカイプを通じて、そういった技術を習得しています。そんな形でつながりを常に持っている。私もこの中では高齢者の部類だと思いますが、LINEなどによりつながりを持っていますので、ここからネットなどネットを利用したものを広めて行けば、3人に1人70歳以上になっても、支え合っていけるのかなと感じています。

今後も微力ながらお力になれたらなと思っています。

<後藤委員>

委員としては、主体的に議論に関われたかという点、すごくお客様でいてしまったような気がして、自分の中では少し寂しいという気持ちがありますが、自分なりに色々学ばせていただけて良かったと思います。

また、このように基本計画はできていくのだと、本当に薄くではありますが、私がそこに関わらせていただいたのは本当にありがたいと思いました。

私は市民として二つ立場がありますが、静岡市に住む者として自治会とかの役員をやっている時にはすごく悶々と閉塞感を感じ、自分なりにそれでもアクションを起こして変えて行こうと思ってもまたうまくいかずにみたいなことを感じていました。もう一つは団体の運営だとか個人の市民活動をやっていく上で、市民活動はどういうことなのかなとい

うのはすごく感じていました。

ボランティア、そして営利・非営利とありますが、もう営利・非営利というくくりではなく、皆が理想とするところに向かってどういうところから自分がそこを作っていくかを考えていき、また、色々な立場の人が皆で協力しながら各々の立場でできることをやり、相対的に良いまちづくりができれば良いのではないかと思います。その中で自分がこれからできることをまた考えていけたらなと思いました。ありがとうございました。

<吉田委員>

私は最年少ということで不安があり、考えも及ばないところもありましたが、1回につき1回は発言しようって決めて頑張っていました。

市の行政の会議ということで委員になる前は固いイメージがすごくありました。もちろん型はしっかりされているのですが、温かみのある場だなんて感じていて、それは皆さんが市民活動に取り組まれているからなのかなという風に思っていました。終わった後とかにも、さっきのことちゃんと理解できた？大丈夫？という風に声かけてくださる委員の方もいて嬉しかったです。

私は静岡県立大学のボランティアセンター準備室に所属し静岡県立大学にボランティアセンターを作るための活動をしています。大学4年生のため卒業となってしまいますが、この活動は卒業ギリギリまでやろうと思っています。来年から環境が変わり、どんな形になるかはまだわかりませんが、引き続き市民活動にも関わられたらいいなという風に思っています。今までありがとうございました。

<栗田委員>

私は静岡市のデザインカレッジのチームで市長賞をいただき、その勢いでこちらに応募し、参加させていただくことになりました。皆さまのそれぞれのお立場の、それぞれのご意見を毎回聞かせていただくことができ、とても勉強になりました。

まちづくり・市民活動ということで、意識的にボランティアにあちこちに出かけましたが、非常に負担が大きいということも知りました。

社会参加をする、働き続ける、何かを続けるということはとても大切なことで、個人的には、若者、女性、高齢者、就労支援の方に自分が向かいたいと思いました。ここで皆さまのご意見を聞いたことが、すごく力になったと思います。

ここで審議されたことが、本当に市に直接反映していくのだなと、市の職員の方のお力とか、本当に間近で目のあたりにさせていただいて、今後静岡市民として一生懸命生きていきたいと思いました。ありがとうございました。

<片井委員>

私は丸子まちづくり協議会という地元で立ち上げた組織の副理事長という事でここに来

ていますが、自分の活動は二枚看板で、もう一つ自治連の方の副会長として、主にそちらで防災関係をやっていました。この協議会に参加するにあたり市の方から内容について説明を受けましたが、今もまだ市民活動とは何かということが自分の中でしっかり落ちてないところがあります。

元々明治になってから行政の指示で、それこそお金を国、県、市からいただいて行う、ということが続いてきたといわれている。その流れからいくと、今それができなくなっている。自分も元々行政の人間で港の関係の仕事をしていましたが、その頃から正面の港の岸壁の方の管理はしっかり行うが、皆さんの遊ぶエリアの管理ができなくなった。そして、その頃に協働という言葉、アダプト制度というものが入ってきて取り組み始めたのですが、民間活力的な、企業ではなくて一般の人が協働に関わり始めました。

こちらの地元でも、防災の観点から言うと、私は行政に頼るなと言っています。私が散々やってきましたが、2、3年お金を出して援助すると、そのあとはばさっと切ってしまう。そういうのを繰り返している感じです。指示を待たない、情報は自分で取りなさいということ。今は情報がネット上では溢れていますので、ボランティア活動するにしても、ここからネットもできましたが、たぶん欲しい人は色々出しているし、ネット上で拾えるだろうから、そういう情報を自分で探していけば良いのかなと思っています。

自治会そのものに入っている人が、市の平均で世帯数の大体7割を切っています。3割入っていない。自分の町内会でもそれぐらいだと思います。清掃活動などはほぼ8割以上の人が世帯から出てきてくれていますから、そうすると、6、7割の人は活動に参加しているのかなと思います。そのあたりの評価の仕方、あるいは自治会活動とはという部分を考えていかなければならないと思います。

自分としては、そろそろ抜けて自分の遊びの方に移りたいと思っていますが、なかなかできなくて悩んでおります。ありがとうございました。

<山本副会長>

何かのご縁で少し長めに委員というのをやらせていただいて、計画策定の時に関わり、その後にも関わり、中間見直しにも関わりという大変贅沢な体験をさせていただきました。6年も経つと時代が変わってきていて、当時決めた言葉が古くなることを感じました。

私に関わるかどうかはまったく別として、もう第4次の基本計画が見えてきています。今回は作業としてどうだったのだろうと考えると、今回、皆さんと苦しんだような気がしたのです。

市民活動って何ということが何度も何度も出るのに、答えらしきものが出てこない。自治会活動も確かに非営利活動なのだけれど、私たちNPOと一緒にしてよいものなのか、できるものなのか、どうなるのか、誰が伴走するのかというのがわからないで来てしまった。

先ほど池田委員が評価指標を変えてやっているところもあるというお話がありました。ここに象徴されると思いますが、すべての枠組みが変わってきていて、行政さんが測ること

として、どこに一体照準を合わせたら良いのかもわからなくなっている。すべてがゆらゆら動いているという難しい時代に入ってきている。第4次計画は現実にそれを入れないと、前の世代のものを一生懸命守ろうとしていても、吉田さんたちのためにならないよというのが今回痛感したことでした。

今回はどんがらがっしょん変えましょうということではないので、その前段の議論だと思いますが、言葉を自分で出し尽くせたと思うとまだまだだった、一回一回もっと大切にしておけばよかったという気持ちがあります。ただ、みなさんが素晴らしいと思ったのは、疑問を言い続けたこと。シャンシャン会議する気が全くなかったことは大変すばらしいと思ひまして、私はこのバトンは今向こうに結構魂込めて言っていますが、次につなげたいなど。

ネットの話をしてくださいました。私はこの資源が少なくなったように見える中で、ITの力はもの凄く大きいと思ひて、みんながバンバン使ってコミュニケーションの量をどんどん増やして、新しい課題に向かい合いあったらいいのではないかなと思ひます。ここからネットがそこにパワーを発揮してくれたらいいなとか、そういう未来に本当に役に立つ話をもっともっと増えていく場になればいいなと思ひます。ありがとうございます。

<金川会長>

ありがとうございます。今回は中間見直しでしたので、その役割を果たすということを中心に進めてきました。皆さまがおっしゃったように、市民活動等に関する様々な新しい動きも出てきています。そのようなものをどこまで反映させていくのかと悩みつつ、議事を進めていたというのが正直なところですよ。

簡単に時代の変化というのを振り返ってみると、ひとつとして情報化がどんどん進展しているということで、ネットを使ったコミュニケーションとか無限の可能性があると思ひます。ここからネットもスタートしましたので、それを利活用するということが必要かと思ひます。

それから入管法も改正が行われまして、これからますます日本社会は多文化社会に入っていくのではないかなと思ひます。そうやってきた時に、今までの私たちの意思決定の仕方が見直されるような時代に入ってくる。市民活動促進も例外ではないということになるのかなと思ひます。

この会議ではいくつかの大きな論点があつて議論されました。一つは自治会の問題かと思ひます。これは何名かの委員からご意見が出されています。静岡市は遅れているのではないかなというご意見もありました。三か月ほど海外に行つておりましたが、自治会について西洋人に説明するのは極めて難しい。何回説明してもそれはアソシエーションなのかコミュニティなのかかわからないと。だから説明するのが難しい。それだけでも十分な議論になつたかと思ひます。これは日本古来のものとして、やはり日本型の市民社会ということで向かわせていくべきものだと思ひています。一方で、そういう気持ちで新聞等を見ていると、自治会は崩壊寸前に来ているだとか、成り手が非常に減つてきているという記事がありまし

て、別のシステムを考えていく方が良いのではないかと思います。最近そういうことに興味を持っていて、自治会をもう少し事業化を高めていくというような議論もなされていますが、雲南市や名張市のようなやり方もこれから必要になるのではないかと考えています。その前に、どのような姿を描いたら良いのかというのは、まだ結論が出ていないというのが現状だと思っています。

協働という言葉ですが、計画の中で定義されていて、かなり細かく書かれています。協働には広義の協働と狭義の協働があります。市民活動や協働の議論を始めた20年前は、狭義の協働を中心に議論をされていたと思いますが、今は、広義の協働が使われていて、協働という言葉は行政用語の中では増えているということです。そうすると、何が協働で何が協働でないというほとんど思考停止に陥ってしまうという状況が発生しています。安易に協働という言葉を使わない方が良いのではないかと他の先生もおっしゃっていますが、最近論文を頼まれてそういうことを書きました。仮に狭義の協働というものがあるとするならば、それを実際に担保する何かが必要になってくるかもしれない。そういうこともこの計画の中にも十分に書かれていませんが、議論になっていくのではないかと思います。

それから、市民活動の定義をどうするのかというのが大きな問題としてあると思います。時代が変化していることと、行政自体の緊縮財政は避けられないという大前提がある中で、ソーシャルビジネスの話も入ってくるとは思いますが、どのようにこの計画を進めていくのか、次期協議会に期待したいと考えています。

計画はきれいなものを作るというより泥臭くても良いから実行していくことに意味があると思いますので、市には協議会での意見に基づき、実施について頑張ってくださいと思います。

それでは本日の議事は以上となりますので、進行を事務局にお返しします。